向島百花園

むこうじまひゃっかえん

開園　昭和 14 年（1939）7 月 8 日　　所在地　墨田区東向島 3-18-3
開園面積　庭園 8,718.52 ㎡　　開放公園 2,167.36 ㎡（平成 27 年 7 月 1 日現在）



萩のトンネル

スカイツリーと桜



江戸の町人文化が花開いた文化・文政期（1804 ～ 1830）に造られた庭園。庭を造ったのは、それまで骨董商を営んでいた佐原鞠塢。交遊のあった江戸の文人墨客の協力を得て、旗本・多賀氏の元屋敷跡である向島の地に、花の咲く草花鑑賞を中心とした「民営の花園」を造り、開園しました。

開園当初は、360 本のウメが主体で、当時臥竜梅で有名だった亀戸清香庵の梅屋敷に対して「新梅屋敷」と呼ばれたほどです。その後、ミヤギノハギ、筑波のススキなど詩経や万葉集などの中国、日本の古典に詠まれている有名な植物を集め、四季を通じて花が咲くようにしました。「百花園」の名称は、一説では、画家・酒井抱一の言葉「梅は百花に魁けて咲く」または「四季百花の乱れ咲く園」という意味でつけられたものです。

百花園は当時の一流文化人達の手で造られた、庶民的で、文人趣味豊かな庭として、小石川後楽園や六義園などの大名庭園とは異なった美しさをもっています。

民営としての百花園の歴史は昭和 13 年（1938）まで続き、同年 10 月に最後の所有者の小倉未亡人から東京市に寄付され、翌 14 年 7 月に東京市が有料で制限公開を開始しました。なお、昭和 53 年（1978）10 月に文化財保護法により国の名勝及び史跡の指定を受けました。

画像及び文章素材提供：公益財団法人東京都公園協会